

中期チュルク語翻訳文献とその背景

菅原 睦

むげに聞えぬところどころなどは、大かた誤字にぞ有ける
—本居宣長『玉勝間』十一の巻—

「翻訳文献」の範囲

1 ユースフ Yūsuf 『クタドゥグ・ビリグ』 *Qutaḍġu Bilig* (1069/70 年)¹

ペルシア語詩の形式を採用したチュルク語による「最初の」長編物語詩
韻律：短長長 短長長 短長長 短長 (*mutaqārib*)

原作の存在？

‘Judging from the large number of Persian calques in the language of *Kutaḍġu Bilig* (discussed below), it is probable that its immediate model was a Persian mirror for princes. If so, no trace of such a model has come down to us.’ (tr. Dankoff 1983:8)

yüzin kızledi yérke **rûmî kıızı** / ajun kırtışı boldı **zengî yüzi** (3948²)

「ルームの娘がその顔を地面に隠すと 世の表は黒人の顔になった」

※題名や主要登場人物名はすべてチュルク語

kitâb atı urdum Kutadġu Bilig (350)

(ki.tâ.ba.³ ti.ur.dum. ku.tad.ġu. bi.lig)

「(この) 書の名を『クタドゥグ・ビリグ』と付けた」

bu Ay Toldı aydı é hâcib kutı / eşittim bu Kün Tuġdı ilig atı (526)

(bu.ay.tol. dı.ay.dı. é.hâ.cib. ku.tı // e.şit.tim. bu.kün.toġ. dı.i.lig. a.tı)

「このアイトルドゥは言った：幸いなる侍従よ、
このキュントゥグドゥ王の名は聞いております」

turup kuçtı Ögdülmiş Odğürmişġ / öpüp yıġladı yérke tökti yaşıġ (6196)

(tu.rup.kuç. ti.ög.dül. mi.şod.ġur. mı.şıġ // ö.püp.yıġ. la.dı.yér. ke.tök.ti. ya.şıġ)

「オグデュルミシュは立ち上がってオドゥグルムシュを抱きしめた
キスをして泣いた 地面に涙をこぼした」

¹ 現在では古代チュルク語文献に含められることが多い。

² 以下引用はトルコ文化観光省のウェブサイト上で公開されている本文により、一部に変更を加えた。

³ 「名」を意味する語は長母音をもつ**āt* (cf. Tkm. *āt*) に由来するため、このことが韻律に反映された可能性が高い。ただし 526 では同じ語の母音 *a* が短母音として扱われている。

2 クルアーンの「行間訳」

Ündedi karāṅkuluklar içinde kim yok Tengri meger sen. Arıg turur-sen.
叫んだ 暗闇 中で CONJ ない 神 ほかに あなた 清い COP-2SG
Men erdi-m küç kılığlılardın.
わたし PAST COP -1SG 力 なす者たちから

ロシア科学アカデミー本 (Usta 2011:116)

対応するアラビア語原文 (21 章 87 から)⁴

fa-nādâ fī al-ẓulumāti an lā ilāha illā anta subhānaka
そして叫んだ 中で 暗闇 CONJ ない 神 ほかに あなた あなたに讃えあれ
innī kuntu min al-ẓālimīna
本当にわたしは だった から 不正な者たち

※まとまったテキストと見なすことへの疑問

‘Apparently the glossists’ intent was not to produce a Turkic or a Persian version of the Qur’ān, but only to provide an aid for the reader of the Arabic text, or, and this is even more probable, for as Persian or a Turc who wanted to learn Arabic.’ (Bodrogligeti 1984:456)

3 初期の散文作品

ラブグズィー Rabgūzī 『預言者たちの物語』 *Qiṣaṣ al-anbiyā* (1310 年)

マフムード・ビン・アリー Maḥmūd b. ‘Alī 『天国への道』 *Nahj al-farādīs* (1350 年頃)

作者不詳 『昇天の書』 *Mi‘raj-nama (Mi‘rāj-nāma)* (1436 年以前)

āmdi bilgil kim bu kidabnīñ adī Mi‘raj-nama turur. **Nahjul-Faradis adliḡ kidabfīn türk tiligä āwürdük**, köp kişilärgä fayda tägsün täp.

「さて知るがよい、この書物の名は『昇天の書』である。『天国への道』という書物から
(我々が) チュルク語に訳した、多くの人々に益が至るように、と

『昇天の書』 (MS 1v8-10)

cf. ‘No known version of the *Qiṣaṣ* in Arabic or Persian is very close to Rabghūzī’s version. Indeed, the latter is certainly not the product of translation from any single source; rather we have every reason to believe the author when he states in his own introduction that his is an original compilation of circulating materials. Persian versions are more probable as direct sources for

⁴ それから彼は、諸々の暗闇の中で祈り呼びかけた。「あなたのほかに神はありません。称えあれ、あなたこそ超越者。まことにわたしは不正なものたち（の一人）でした」。(『日垂対訳 クルアーン』 p. 358)

Rabghūzī than Arabic ones, although the author seems to have deliberately de-emphasized specifically Persian elements in the text or in its background.’ (ed. Boeschoten 1995:xx)

※クルアーンからの引用にそえられたチュルク語訳の例 (cf. Sugahara 2004:6-7)

Mə‘naşī ol bolur: “Yunus bulañd ün birlä bizni yad qıldı:
その意味 それ COP ユーヌス 高い 声 で 我々を 思い起こした
“İdiya, sãndin özgä tañrı yoq. Arıglıq şãña turur.
主よ あなたより 他に 神 ない 清らかさ あなたに COP3SG
‘Mãn özümgä zulum qıldı-m, zalımlardıñ boldu-m,’” dedi.
私 私自身に 不正 なした-1SG 不正な者たちから PAST COP-1SG 言った
『預言者たちの物語』 (ed. Boeschoten:362)

4 ペルシア語文学作品からの翻訳

クトゥブ Quṭb (al-dīn Sarāyī) 『フスラウとシーリーン』 *Xusraw u Šīrīn* (1341/42 年)
ニザーミー Nizāmī Ganjawī (1209?年没) のペルシア語による同名作に基づく

xānīm atıñga oşbu pãrsī tilni / čävürdüñ tüzdüm oş naẓm üzrã qılñı
「我がハーンの御名のためこのペルシア語を 訳した, この詩文の上に弦を張り整えた」
(MS 7v14)

サラーイー Sayf-i Sarāyī 『チュルク語による薔薇園』 *Gulistān bi al-turkī* (1391 年)
サアディー Sa‘dī Šīrāzī (1292 年頃没) の『薔薇園』 *Gulistān* に基づく

ol ‘ālimlerniñ ulusı ... ayttı şeyh sa‘dī gülistānıñ türkī terceme kılsāñ bir şāhib-devlet ir atına.
「その学者たちの大人が (…) 言った: シャイフ・サアディーの『薔薇園』をチュルク語に翻訳してはどうか, 栄えある御方のために」 (Karamanlıoğlu 1989:4)

『聖者伝』 *Tazkira-yi Awliya (Taḍkirat al-awliyā)* (1436 年以前)

アッタール Farīd al-dīn ‘Aṭṭār (1221 年没) のペルシア語による同名作に基づく

ämti bilgil kim bu kitabnıñ atı Tazkira-yi Awliya turur. **biz bu kitabnı pãrsitün türkçä tilkä äwürdük** kim maşayixlar sözikä rağbatlıg, alarnıñ biligitin tiläklig ‘aşıqlarqa sadiqlarqa üküş fayidalar bolsun täp.

「さて知るがよい, この書物の名は『聖者伝』である. 我々はこの書物をペルシア語からチュルク語に訳した. 導師たちの言葉を必要とし, 彼らの知識を求める (神を) 愛する者たちや誠心の徒らに益するところ多かれと」 (MS 69v10-14)

作者不詳⁵『グルとナウローズ』 *Gul u Nawrōz* (1411/12 年)
ジャラル・タビーブ Jalāl Ṭabīb の原作 (1333 年) に基づく

buyurdī kim bu gul faşlinda dar-ḥāl / Gul u Nawrōznīḡ afsānasīn sal
ayīt ol qīşşanī turkī tilinā ...

「(主君イスカンドルは) 命じた, この薔薇 (グル) の季節に, 今こそ
グルとナウローズの物語を語れ その話をチュルク語に仕立て...」 (MS 58b2-3)

『サッカーキー Sakkākī 詩集』 (14 世紀後半–15 世紀前半?) から

‘İşk işin Sekkākī evvel bilmeyin āsān körüp / Āḡırnı öz cānıñın işini düşvār eyledi

「サッカーキーは愛の事を最初知らずに容易と思い 終いに自らの命の事を難しくした」
(ed. Eraslan 1999:296)

『ハーフィズ Ḥāfız 詩集』の ki ‘işq āsān numūd awwal walē uftād muşkilhā 「愛は始めたやすく見えたが、あまたの困難が生じた」 (ハーフィズ/黒柳恒男訳 1976:3) をふまえる⁶

ナヴァーイー Mīr ‘Alīşēr Nawā’ī (1501 年没)『友愛のそよ風』*Nasā’im al-maḥabba min šamā’im al-futuwwa* (1495 年以降)

ジャーミー Nūr al-dīn ‘Abd al-Raḥmān Jāmī (1492 年没) のペルシア語による『親愛の息吹』*Nafahāt al-uns min ḥaḍarāt al-quḍs* ほかに基づく

原文との対照の実例 (例はクトゥブ『フスラウとシーリーン』から. cf. 菅原 forthcoming)

içimni₁ öz₂ nūruḡ₃ birlä₄ yarutğil₅ / tilimni₆ öz₇ ḡanāḡ₈ üzrā yūritgil

Dāwūd yanlığ₁ bu könlüm₂ tāza₃ qilğil₄ / Zabūrīmnī₅ bāḍük āwāza₆ qilğil₇ (4-5)

「私の内面を御身の光により照らせ 私の舌を御身の賛辞の上に動かせ
ダーウードのように私のこの心を新たにせよ 私の詩篇を高く響かせよ」

原文 darūnamrā₁ ba₄ nūr-i₃ x^wad₂ bar-afroz₅ / zabānamrā₆ ḡanā-yi₈ x^wad₇ dar-āmōz

ba Dāwūdī₁ dilamrā₂ tāza₃ gardān₄ / Zabūramrā₅ baland-āwāza₆ gardān₇ (4-5)

ただし yūritgil 「動かせ」に対し原文では dar-āmōz 「教えよ」

bilig₁ berdi₂ anı₃ bilmäklik₄ üçün₅ / basārat₆ berdi₇ āymänmäklik₈ üçün₉ (34)

「かれを知るために知恵を与えた (かれを) おそれるために見識を与えた」

原文 xirad₁ baxşid₂ tā₃ ōrā₃ şināsēm₄ / basārat₆ dād₇ tā₉ z-ō ham harāsēm₈ (39)

⁵ 作者をめぐる議論については菅原 (2012) を参照.

⁶ この指摘はロシアの偉大な東洋学者ベルテリスによるものである. Bertel's (1965:48; 初出 1948) 参照.

ただし *bilmäklik* 「知ること」, *äymänmäklik* 「おそれること」に対し原文では *šinäsēm* 「我々が知る」, *haräsēm* 「我々がおそれる」

agar₁ bolsañ₂ avuč₃ tupraqda₄ x^wašnūd₅ / saña₆ bolmaz₇ ziyān₈ bizgä₉ bolur₁₀ sūd₁₁ (95)

「もし一握りの土に喜ぶなら 御身に損失はなく我らには益がある」

原文 *wagar₁ gardī₂ zi muštē₃ xāk₄ x^wašnūd₅ / turā₆ nabwad₇ ziyān₈ mārā₉ buwad₁₀ sūd₁₁* (106)

jihatkā altī köñlāk ol kädürdi (42) 「かれは方位に 6つのシャツを着せた」

原文 *jihatrā šaš girībān dar sar afkand* (42) 「かれは方位に 6つの襟を配した」

körüngän kökdä yerdä barča jism ol (62)

「天において地において見えるのはすべて物体である」

原文 *namüdärē ki az mah tā ba māhī ast* 「月から魚までにある見えるもの」 (68)

bu arkān birlä bälgürgäy qamuğ yüz / bu allarqa qayu kim uysa ussuz⁷ (81)

「これらの要素 (だけ) によりすべての顔は具現する : これらの欺きに従う者は誰でも無分別である」

原文 *magō z-arkān padīd āyand mardum / čünān k-arkān padīd āmad zi anjum* (87)

「言うな : 人間は要素から具現する 要素が星々から具現したように, と」

ne belgürgäy sāniñ elgiñdä nāma / ne x^wad qilğay asığ bašda ‘imāma (76)

「おまえの手にある書は何を現わすか 頭に巻いたターバンが何の役に立つか」

原文 *na z-abrō jastan āyad nāma-i naw / na az āθār-i nāxun jāma-i naw* (82)

「眉の瘻癢が新しい手紙の, 爪の斑点が新しい服の予兆にはならない」

原文との対照からわかること

エディションの訂正 (例はクトゥブ『フスラウとシーリーン』から. cf. 菅原 forthcoming)

iš ol⁸ ḥalvāt-dä olturyanya ma‘būd (23) (Zajęczkowski 1958:18)

「独居に座る者にとって iš である. 崇拜される者」

原文 *anīs-i xātir-i xalwat-nišīnān* (23) 「独居に座る者たちの心の親しい友」

⇒ *iš* を *eš* 「仲間, 連れ」に訂正

⁷ 現行のエディション (Zajęczkowski 1958:22, Hacıeminoğlu 1968:185) は *us söz* とする.

⁸ Hacıeminoğlu (1968:182) は *işol* と写している.

bu tüzgingüçi gunbād kim berür nūr / körärbiz tüzginür özgäni bilnür (68)

(Zajaczkowski 1958:21)

「光をもたらすこの巡る穹窿 我々は（それが）巡るのを見る、
他のものを（？）知られる」

原文 az ĩn gardanda gunbadhā-yi pur-nūr / ba-juz gardiš ċi šāyad dīdan az dūr (74)

「光に満ちたこの巡る穹窿から その巡り以外に遠くから何を見ることができようか」
⇒ özgäni 「他のものを」を özgä ne 「他に何が」に訂正⁹

本文の訂正

maña haddimča taklīf-i yār qilgīl (120)

「私に対し分に応じて yār を課せ」

原文 ba qadr-i zōr-i man nih bār bar man (133) 「私の力の程度に私に荷を課せ」

⇒ yār (يار) は bār (بار) 「荷」の誤記か

中期チュルク語における補助動詞

後続動詞の文法化 (Rentsch 2006:196)

(A) Syndetic connection of independent verbs

(B) Modification of the succeeding verb

(C) Modification of the preceding verb (partial loss of the original semantics of the postponed verb)

(D) Signalization of the purely actional values (complete loss of the original semantics of the postponed verb)

(E) Signalization of aspectual values

1 中央アジア・チュルク諸語で「持続」を表わす用法をもつとされる4つの補助動詞

「立」 「座」 「臥」 「歩く／動く」

Uyg. tur- oltur- yat- yür-

Uz. tur- o'tir- yot- yur-

Kaz. tur- otir- žat- žür-¹⁰

Kirg. tur- otur- jat- jür-

⁹ Hacıeminoğlu (1968:185) の転写 özge ni は正しく「他に何を」を意図していると判断される。

¹⁰ 藤家 (2012) は、これら4つの動詞に由来し副動詞 -p に後続するカザフ語 tur, otir, žatir (jatir), žür (jür) を補助動詞とは「別のカテゴリー」とするが、その必要は全くない。

『聖者伝』における *oltur*-「座」¹¹と *yat*-「臥」の補助動詞用法について

aydtī ya baba, bir juhut kälip maşjit içindā xurma **yä-p** **oldur-ur** täp. (MS 102v9-10)
食べる-CONVERB 座-AOR3SG

「(子供が) 言った：お父さん，ひとりのユダヤ人が来てモスクの中でナツメヤシを食べ
テ座ッテイル，と」

原文 kūdakē āwāz dād ki juhūdē ba maşjid āmada ast wa xurmā **mēx^warad** (53.15-16)
食べる PRES3SG

ol arslan yīraqtīn alarqa **baq-īp** **oldur-ur** **ärti**. (MS 152r11)
見る-CONVERB 座-AOR PAST COP3SG

「その獅子は遠くから彼らを見テ座ッテイタ」

原文 šēr ānjā **nišasta būd** wa dar išan **nažāra mēkard** (127.9-10)
座る PAST PFT3SG and 見る IMPF3SG

bir kün Šayx yaranları bilā sufra salıp ödmäk **yä-p** **oldur-ur**-ta Šayx aydtī ä yaranlar ...
食べる-CONVERB 座-AOR-LOC (MS 257v2-3)

「またある日，シャイフが朋友たちと食布を広げ，パンを食べテ座ッテイル時にシャイ
フは言った：朋友たちよ，...」

原文 yak rōz bā ašhāb-i xwēš ba sufrayē **nišasta būd** ba nān **x^wardan**. (...) Šayx ašhāb rā guft, ...
座る PAST PFT3SG to パン 食べる INF
(556.13-15)

qačan kim Šayx namazni **tükād-īp** **oldur-tī** **ärsä** (MS 259r11)
終える-CONVERB 座-PAST3SG COND COP3SG

「シャイフが礼拝を終エテ座ルト (?)」

原文... tā šayx **az namāz fāriğ šud** (567.8)

iki raka‘at **namaz qīl-īp** **oldur-tī** taqī bašīnī xirqasıqa soqtī. (MS 261r5-6)
礼拝 行う-CONVERB 座-PAST3SG

「2 ラクアの礼拝ヲ行ッテ座ッタ (?), そして頭を弊衣の中に引っ込めた」

原文 du rak‘at **namāz guzārd** wa sar dar girībān furō burd (580.1-2)

¹¹ Prokosch (2009:191-192) はチャガタイ語 -p *oltur*- に対して 1. inchoativ: *sich anschicken zu tun*; 2. *gründlich tun* という意味を示しているが，その妥当性は疑わしく，またあげられた用例もすべて 17 世紀の文献からのものである。

bir xurma yärtä **tüş-üp** **yad-ur** **ärti.** (MS 149v13)

落ちる-CONVERB 臥-AOR PAST COP3SG

「ひとつのナツメヤシが落ちテ横ニナッテイタ」

原文 xurmāyē **uftāda būd** (124.1)

落ちる PAST PFT3SG

yolda körär bir yarmaq **yad-ur.** (MS 83v17)

「道に一枚のお金が横ニナッテイル (のを) 見る」

原文 dar rāh yak dīnār dīd (27.8-9) 「道で一枚の金貨を見た」

yanları yadip uyudılar. Malik oygağ **baq-ıp** **yad-ur** **ärti.** (MS 99r10-11)

見る-CONVERB 臥-AOR PAST COP3SG

「仲間たちは横になって眠った。マーリクは目を覚ましたまま見テ横ニナッテイタ」

原文 yārānaš bixuftand (50.3) 「仲間たちは眠った」

2 副動詞 -p + turur に由来する indirective 形式

Uyg. -ptu/-pti/-p, Uz. -bdi/-b, Kaz. -pti/-p, Kirg. -ptir, Tkm. -pdir

‘In the *Baburnama*¹², (...) -(V)ptur can be employed in situations that favor an evidential interpretation although this value is not actually encoded¹³.’ (Rentzsch 2011:116-117)

magar māniñ közüñ körmäz **bol-up turur** kim Ka ‘bani körä almaz män. (MS 117v15-16)

なる-CONVERB turur3SG

「どうやら私の目が見えなくなった, カアバを見ることができないとは」

原文 **magar** cašm-i marā xalalē rasīda ast? (75.10)

「どうやら私の目に損傷が起きたか」

Ibrayim aydti **magar** bu tarbešlikni uçuz **al-ıp sän** täp. (MS 142r9)

買う-CONV 2SG

「イブラーヒームは言った：どうやらおまえはこの托鉢僧の身分を安く買った, と」

原文 **pindāram** ki darwēširā ba rāyigān xarīda ī (111.7-8)

「思うにおまえは托鉢僧の身分をただで買った」

¹² バーブル Zahir al-din Muhammad Babur (1530 年没) の回想録。中期チュルク語を代表する散文作品のひとつである。

¹³ cf. ‘do not belong to the core inventory of evidentials (...) but are capable of signaling or implying evidential ideas’ (同:116).

magar nāmā tapmayīn ač **yad-īp tururlar**. (MS 144r3)

横になる-CONVERB turur3PL

「どうやら彼らは何も見つけ(られ)ずに空腹で眠った」

原文 **pindāšt** ki hēč nax^warda and wa gurusna xufta and (115.18-19)

「彼は思った：彼らは何も食わずに空腹で眠った¹⁴」

Pers. *magar* > Turk. *meğer*

‘*meğer* (or *meğerse*) can be added to a sentence evidentially marked by *-mIş* or *-(y)mIş* in order to indicate that the statement expresses a revision of the speaker’s earlier belief about a situation in the light of new information, new observation or new experience. The nearest English equivalent is usually ‘it turns/turned out that...’ (Göksel - Kerlake 2005:220)

ナヴァーイー Mīr ‘Alīšēr Nawā’ī (1501 年没) による翻訳とその背景

人物伝『友愛のそよ風』*Nasā’im al-maḥabba min šamā’im al-futuwwa* (cf. 菅原 2017)

・執筆の動機

「チュルクの人々のある者は、(...) この言葉 [ペルシア語] に十分に通じていないためにこの恩寵を得られず、この真理の精妙さが彼らに知られていない。この卑しい者 [ナヴァーイー] は、もし努力すればこの書 [ジャーミー『親愛の息吹』] をチュルク語に翻訳できるだろうか、その精妙さと難解さとをより明瞭な言葉でもっとわかりやすく述べられないだろうか、と考えていた。(...) 901 年 [1495/96 年]、至高の神の御助力により、この大事に着手しこの難業に筆を運ばせた。」 (ed. Eraslan 1996:1.22-2.8)

・原作への参照の指示

「(そのことは) その貴い書物 [『親愛の息吹』] の目録でかの御方 [ジャーミー] (...) がその事情を詳述しておられる通りである。読んだ者たちは見たであろうし、読んでいない者たちは読めば見るであろう」 (1.13-15)

「かの御方のことを述べるのに筆は無力である。(ここに) 書かれたよりも詳しいことを望む者は『親愛の息吹』で見るがよい」 (193.8-9)

・ペルシア語の詩行を原文のまま訳なしで引用

¹⁴ *xufta and* は現在完了形。

・状況証拠

「チュルク人は大小貴賤を問わずや皆サルト語¹⁵に堪能であり相応に話すことができるし、
(...) さらにチュルクの詩人たちはペルシア語で色鮮やかな詩歌と甘美な文言を著わしている」

(ナヴァーイー『二つの言語の裁定』 *Muḥākamat al-luġatayn*, ed. Barutçu Özönder 1996:169)

・訳語の選択について

A. ペルシア語語彙をアラビア語語彙に

müşkil irdi 「困難であった」 (193.20) 原文 dušwār šud (312.19)

bir kabr başıda 「ある墓の前で」 (217.9) 原文 bar gōristān (356.1)

Müte'emmil boldı 「思案に暮れた」 (224.15) 原文 andēša-nāk šud (364.18)

‘Ala’s-sabāh 「朝に」 (250.16) 原文 bāmdād (403.2)

bu fakīr 「この貧しき者」 (283.24-25) 原文 in bēčāra (445.13)

dünyā vü mā-fihānīng maḥabbeti 「現世とそこにあるものへの愛着」 (348.20)

原文 dōstī-i dunyā u ānči dar dunyā st (516.16-17)

B. アラビア語語彙をペルシア語語彙に

bu müjde 「この吉報」 (187.10-11) 原文 in bašārat (301.13)

kedhudā bolmağandur 「結婚しないでいた」 (205.21) 原文 muta’ahhil našuda būd (330.8)

pervā kılmās irdi 「気にかけなかった」 (310.11) 原文 iltifāt namēkard (474.20)

Ḥalvetīler gūristānıdadur 「ハルワティーたちの墓地にある」 (323.26-27)

原文 dar mazār-i Xalwatiyān ast (504.6-7)

herāyine 「必然的に」 (439.12) 原文 lā-jaram (612.6)

bir iski būriyā 「1枚の古い敷物」 (445.19) 原文 yak pāra ḥašīr-i kuhna (618.10)

cf. ‘In other words, the translators’ claims that they worked for a public which did not know Persian may be considered as a topos whose actual relevance may be much smaller than we have originally assumed.’ (Hagen 2003:130-131)

「ナヴァーイーによる『友愛のそよ風』の執筆は、『親交の息吹』という一作品の翻訳・改訂ということを超えて、先行作品を元に『親交の息吹』を生み出したジャーミーの文学活動そのものを、自らの次元で再現するという意味をもっていた」(菅原 2017:50-51)

¹⁵ ここでは口語ペルシア語を指したと考えられる。

cf. 「漢詩の頂点とも言うべき杜甫の詩を朝鮮語に訳す。要するに漢字漢文が行っていることは、全て正音でも可能なのだということを、これでもかとはばかりに実践の上で示すのである。」(野間 2010:246)

- Bacanlı, Eyüp (2010) *-(X)p tur- (/dur-)* art fiilinin durağanlaştırma işlevi.
Turkish Studies 5/4: 119-132.
- Bertel's, Je. E. (1965) *Izbrannye Trudy. Navoi i Dzhami*. Moscow.
- Bodrogligeti, A. J. E. (1984) Ghosts, copulating friends, and pedestrian locusts in some revocues of Eckmann's "Middle Turkic Glosses". *JAOS* 104: 455-464.
- Bodrogligeti, A. J. E. (2001) *A Grammar of Chagatay*. Muenhen.
- Eckmann, János (1966) *Chagatay Manual*. Bloomington.
- Erdem Uçar, Filiz Meltem (2016) Çağatay Türkçesinde tasvir fiilleri. *Türkbilig* 2016/32: 21-56.
- 藤家洋昭 (2012) 「カザフ語におけるアスペクトを示す形式 *jatır, otır, tur, jür*」 久保智之, 林徹, 藤代節 (編) 『地球化時代におけるアルタイ諸語の急速な変容・消滅に関する総合的調査研究』 113-128. 九州大学人文科学研究院言語学研究室.
- Göksel, Aslı and Kerslake, Celia (2005) *Turkish. A Comprehensive Grammar*. London.
- Hacıeminoğlu, M. Necmettin (1968) *Kutb'un Husrev ü Şirin'i ve Dil Hususiyetleri*. İstanbul (repr 2000 Ankara).
- ハーフィズ／黒柳恒男訳 (1987) 『ハーフィズ詩集』 平凡社東洋文庫.
- Hagen, Gottfried (2003) Translations and translators in a multilingual society: a case study of Persian-Ottoman translations, late fifteenth to early seventeenth century. *Eurasian Studies* II/1: 95-134.
- アクマタリエワ, ジャクシルク (2013) 「キルギス語の「持続」を表す補助動詞 : *jat-*、*tur-*、*otur-*、*jür* を中心に」。東京外国語大学博士論文.
- Johanson, Lars (1999) Typological notes on aspect and actionality in Kipchak Turkic.
In: Werner Abraham & Leonid Kulikov (eds.), *Tense-Aspect, Transitivity and Causativity*, 171-184. Amsterdam.
- Johanson, Lars (2004) On Turkic transformativizers and nontransformativizers.
Turkic Languages 8: 180-190.
- Karamanhoğlu, Ali Fehmi (1989) *Seyf-i Sarâyî, Gülistan Tercümesi (Kitâb Gülisan bi't-Türki)*. Ankara.
- 野間秀樹 (2010) 『ハングルの誕生 音から文字を創る』 平凡社新書.
- 大崎紀子 (2017) 「チュルク語補助動詞についての研究ノート」。チュルク諸語における膠着性の諸相－音韻・形態統語・意味の統合的研究 2017 年度第 2 回研究会配布資料.
- Prokosch, Erich (2009) *Tschaghataische Grammatik: unter Berücksichtigung des Substandards*. Graz.

- Rentsch, Julian (2006) Actionality operators in Uyghur. *Turkic Languages* 10: 193-219.
- Rentsch, Julian (2011) Modality in the Baburnama. *Turkic Languages* 15: 78-124.
- Sugahara, Mutsumi (2004) “Devrik Cümle” in Middle Turkic.
In: Fujishiro Setsu (ed.) *Approaches to Eurasian Linguistic Areas* (CSEL 7) 1-13. Department of Communication Studies, Kobe City College of Nursing.
- 菅原睦 (2007) 『ウイグル文字本『聖者伝』の研究 I. 序論と転写テキスト』
神戸市看護大学コミュニケーション学講座.
- 菅原睦 (2008) 『ウイグル文字本『聖者伝』の研究 II. 日本語訳および註』
神戸市看護大学人間科学領域.
- 菅原睦 (2009) 「中央アジアにおけるテュルク語文学の発展とペルシア語」 森本一夫 (編著)
『ペルシア語が結んだ世界—もうひとつのユーラシア史』 131-146. 北海道大学出版会.
- 菅原睦 (2011) 「前古典期チャガタイ語文学における翻訳・翻案」. 近藤信彰 (編) 『ペルシア語文化圏史研究の最前線』 31-59. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 菅原睦 (2012) 「チャガタイ語『グルとナウローズ』の作者について」.
久保智之, 林徹, 藤代節 (編) 『地球化時代におけるアルタイ諸語の急速な変容・消滅に関する総合的調査研究』 (CSEL 18) 1-17. 九州大学人文科学研究院言語学研究室.
- 菅原睦 (2017) 「ナヴァーイーにおける翻訳—『友愛のそよ風』を例に—」.
『西南アジア研究』 86:35-54.
- 菅原睦 (forthcoming) 「クトゥブ『ホスロウとシーリーン』導入部から—ペルシア語原作との対照—」. CSEL 20.
- Usta, Halil İbrahim (2011) *Orta Asya Kur'ân Tefsiri (Metin-Tıpkıbasım)*. Ankara.
- Zajaczkowski, Ananiasz (1958) *Najstarsza Wersja Turecka Ĥusräv u Šîrîn Quṭba I-III*. Warszawa.
- 『日垂対訳 クルアーン [付] 訳解と正統十読誦注解』
中田考 (監修), 中田香織・下村佳州紀 (訳). 作品社 2014.
- ‘Alī Šîr Nevâyî, *Muḥākemetü ’l-Luġateyn. İki Dilin Muhakemesi*.
edited by F. Sema Barutçu Özönder. Ankara 1996.
- Alî-şîr Nevâyî, *Nesâyimü ’l-Maḥabbe min Şemâyimi ’l-Fütüvve*. I Metin.
edited by Kemal Eraslan. Ankara 1996.
- Al-Rabghūzî, *The Stories of the Prophets (Qiṣaṣ al-Anbiyā’)*. An Eastern Turkish Version I. critically
edited by H. E. Boeschoten, M. Vandamme and S. Tezcan. Leiden 1995.
- Mevlâna Sekkâkî Divanı*. edited by Kemal Eraslan. Ankara 1999.
- Yûsuf Khâṣṣ Hâjib, *Wisdom of Royal Glory (Kutadgu Bilig), A Turko-Islamic Mirror for Princes*.
translated by Robert Dankoff. Chicago 1983.
- Yûsuf Hâs Hâcib, *Kutadgu Bilig*. Metin. edited by Mustafa S. Kaçalin.
(<http://ekitap.kulturturizm.gov.tr/belge/1-75546/yusuf-has-hacib---kutadgu-bilig.html>)